

令和4年度 とくしま政策研究センター調査研究
にし阿波高校生「聞き書き」プロジェクト

徳島県西部総合県民局

令和5年3月

【1】 背景および目的

にし阿波（徳島県西部：美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町）地域では、独自の技や知恵を培って傾斜地農業が継承されており、山の斜面を崩さず、環境に適応しながら農作物を生産している。また SDGs が採択される以前から、作ったものは地域で消費するという生産・消費形態が営まれており、自然に寄り添って生きる昔ながらの暮らしは「エシカル」の視点では最先端に位置する。平成 30（2018）年 3 月には、「にし阿波の傾斜地農耕システム」が国際連合食糧農業機関（FAO）によって「世界農業遺産」に認定され、自然と調和した農業と暮らしが国際的に認められた。

しかし、高齢化・人口減少等を背景とした農業の後継者不足は全国的に深刻な問題であり、本地域でも解決を急ぐ課題となっている。世界農業遺産に認定されている農業形態を絶やすことなく、維持・継承・拡大していくために、地域の活性化を通じて、古来からの生産・消費形態をどうやって未来につないでいくのか、その方策を見出す必要がある。

そこで、「傾斜地農耕システム」による環境に負荷をかけない持続可能な農業の可能性を探り、次世代への継承を促すため、本調査研究を行う。

本調査研究では、地元の高校生が、地域を支え暮らしに根ざした農業や食文化、生物多様性の保全、地域の景観の維持、技術の継承などに携わっている「徳島・にし阿波 食と農の名人（※1）」への「聞き書き（※2）」を実施する。伝統的な循環型農業は、「エシカル」としての高い価値を有しており、その技や知恵、地域に対する思いを取材・記録することで後世に伝えるとともに、「エシカル」への理解度向上を推進する。

「聞き書き」は昨年度から実施しており、昨年度は6名にインタビューを行った。また、作品をとりまとめた冊子を1,000冊作成し、にし阿波地域の学校や市町村に配布して、「傾斜地農耕システム」や「食と農の名人」について周知した。さらに世界農業遺産シンポジウムでは、参加生徒らが、聞き書きを通じた学びや感想に関する発表も行った。生徒たちの学びとして、世界農業遺産が身近にあった驚きや、昔の生活から今の生活へのつながりを感じたことなどが挙げられた。また伝統・文化継承の難しさを実感し、今後、積極的に情報発信していくことの重要性を感じたとの声も聞かれた。これらのことから、昨年度の研究を通して、小規模ながらも郷土愛の育成および関係人口の創出を図ることができたと言える。

今年度においては、昨年紹介できなかった「食と農の名人」の紹介から、地域の生活が有するエシカルな価値をより多くの地元高校生に認知してもらい、さらなる担い手・関係人口の創出を目指す。そして、地域において持続可能な農業に取り組む農家の維持・継承・拡大に向けた政策形成につなげる。

（※1）傾斜地農耕や伝統料理等に卓越し、食と農の分野で活躍している者を徳島県が認定。「名人」の知識・経験・技術等を次世代への継承のために指導・実演いただくとともに、情報発信に協力いただいている。

(※2) 話し手の言葉を録音し、一字一句すべてを書き起こしたのち、話し手の語り口で一つの文章にまとめる手法。「聞き書き甲子園」(主催：農林水産省、文部科学省、環境省等)でも用いられている。

【2】 研究内容

にし阿波地域の高校生が「徳島・にし阿波 食と農の名人」への「聞き書き」を実施し、その技や知恵、地域に対する思いを取材・記録した。

①調査対象

(参加生徒) にし阿波地域内の高等学校に在籍する生徒。

脇町高等学校 普通科 1年5名、2年7名

池田高等学校 探求科 1年4名

池田高等学校辻校 総合科 2年2名

(話し手) 徳島・にし阿波 食と農の名人

都築 麗子 (三好市東祖谷)

高橋 敬四郎 (三好市東祖谷)

野田 由紀子 (東みよし町西庄)

近藤 昭 (東みよし町西庄)

磯貝 ハマ子 (つるぎ町貞光)

祖父江 利江 (美馬市脇町)

②調査内容

地元の高校生が、地域を支え暮らしに根ざした農業や食文化、生物多様性の保全、地域の景観の維持、技術の継承などに携わっている「徳島・にし阿波 食と農の名人」への「聞き書き」を実施し、その技や知恵、地域に対する思いを取材・記録することで後世に伝えるとともに、「エシカル」への理解度向上を推進する。

③調査方法

高校生が、話し手の自宅を訪問し、話を聞いて記録に残す。

調査に先立ち、インタビューの方法や準備物、質問の仕方や内容についての事前研修会を開催した。また取材後には、作品編集のため、文字起こしや校正方法についての文書整理研修会を実施した。

講師・監修を京都大学大学院 岩男望氏、ニシアワアカデミア 國金重光氏に依頼し、指導いただいた。

また聞き書きの調査内容や感想について、「にし阿波地域の農業活性化研究セミナー」および「世界農業遺産シンポジウム」で報告した。

さらに、聞き書き作品集を作成し配布することで、多くの人が、持続可能な社会や「にし阿波」の未来について考える契機とした。

実施内容	日程	備考
(ア)参加高校生の募集	令和4年6月～	
参加高校生の決定	7月中旬	脇町高等学校 4組(12名) 池田高等学校 1組(4名) 池田高等学校辻校 1組(2名)
名人とのマッチング	7月下旬	名人6名
(イ)第1回研修会 (事前研修会)	8月8日	脇町高等学校 池田高等学校 池田高等学校辻校
(ウ)聞き書き取材	8月～10月	名人自宅6カ所 各1～2回
文字起こし	8月～12月	
(エ)第2回研修会 (文書整理研修会)	11月10日 17日 21日	池田高等学校辻校 脇町高等学校 池田高等学校
文書整理に係る追加研修	令和5年1月中旬～下旬	脇町高等学校
編集	～1月	
レポートの提出	1月31日	
(オ)作品集の作成	2月	
(カ)にし阿波地域の農業活性化研究セミナー	2月27日	そらの郷より成果報告
(キ)世界農業遺産シンポジウム	3月5日	脇町高等学校・池田高等学校 池田高等学校辻校

(ア) にし阿波管内高校生の参加者募集

にし阿波管内の高校において聞き書きの参加募集を行い、脇町高校、池田高校本校、池田高校辻校より、計18名の生徒が聞き書きに参加した。(参加者名簿は別紙1)



(イ) 第1回研修会(事前研修会)の実施

参加した各高校において、講師に京都大学大学院農学研究科 岩男望氏、ニシアワアカデミア 國金重光氏を招き、事前研修会を開催した。(資料は別紙2)

【事前研修会】


日時	令和4年8月8日(月) 10:00~12:00
出席者	脇町高校：大久保教諭、生徒10名、昨年聞き書きに参加した生徒4名、 講師：國金氏、岩男氏 (オンライン) 徳島県西部総合県民局農林水産部 (三好)：山内 一般社団法人そらの郷：園原、福永
場所	脇町高校
内容	<p>聞き書きの概要について岩男氏から説明し、手法の詳細は、去年実施した生徒4名からのアドバイスを中心に進めた。</p> <p>手法についてのアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none">・録音はスマホのレコーダーアプリを使うと聞き取りや再生を行いやすい。・雰囲気や思ったことなどをできるだけメモしておく、編集時に思い返ししやすい。・最初に自己紹介の時間を長めにとったり、積極的に質問したりすることで相手に興味を持って取材していることを伝えることができ、話しやすい雰囲気づくりにつながる。・役割分担について、現場の状況を見ながら柔軟に対応し、話を深掘りできるようにする。・分からない言葉は、取材中に聞いておくと編集作業が進めやすい。話の流れを遮るようであれば、一通り終わってから質問する。 <p>手法の説明後、グループで事務局にインタビューし、内容をまとめて発表する練習を実施した。</p> <p>その後、各グループに、取材する名人についての情報提供およびスケジュールについて打ち合わせを行った。</p> <p>○インタビューの実践練習から、各グループ内で役割分担の雰囲気がつかめ、また臨機応変に役割を補いながらインタビューを進める練習ができた。</p>





日時	令和4年8月8日(月) 13:30~15:30
出席者	池田高校本校：田島教諭、生徒4名 池田高校辻校：原教諭、生徒2名 講師：國金氏、岩男氏（オンライン） 徳島県西部総合県民局農林水産部（三好）：山内 一般社団法人そらの郷：園原、福永
場所	オンラインで実施
内容	<p>聞き書きの概要について、岩男氏から説明するとともに、脇町高校で挙げた、手法に関するアドバイスを共有した。</p> <p>またブレイクアウトルームなどを活用し、インタビューの実践練習を行った。オンラインでは内容の共有が難しく、発表はせずインタビュー練習のみとなった。</p> <p>最後に、各グループに、取材する名人についての情報提供およびスケジュールについて打ち合わせを行った。</p> <p>○インタビューした内容をまとめる作業はできなかったが、インタビューの難しさや質問する内容について検討できた。</p>
	 

(ウ)聞き書き取材

高校生が各名人の自宅を訪問し、取材を実施した。

日時	令和4年8月21日(日) 13:00~15:00
出席者	脇町高校：生徒3名 徳島県西部総合県民局農林水産部（三好）：南、山内
場所	三好市東祖谷 つづき商店
内容	そば打ち体験を実施している都築氏を訪問し、聞き書きのインタビューを行った。また、そば打ちも体験した。 

日時	令和4年8月25日(木) 13:00~15:00
出席者	池田高校：吉平教諭、生徒4名 一般社団法人そらの郷：出尾
場所	三好市東祖谷 祖谷の地美栄
内容	祖谷の地美栄の高橋氏を訪問し、1回目のインタビューを行った。 

日時	令和4年8月26日(金) 13:00~15:00
出席者	脇町高校：生徒3名 徳島県西部総合県民局農林水産部（三好）：近藤
場所	東みよし町 野田氏宅
内容	野田氏宅を訪問し、聞き書きのインタビューを行った。 

日時	令和4年8月26日(金) 13:00~15:00
出席者	脇町高校：生徒3名
場所	東みよし町 近藤氏宅
内容	近藤氏宅を訪問し、聞き書きのインタビューを行った。現地ではイチゴ大福づくりも体験した。 

日時	令和4年8月28日(日) 14:00~16:00
出席者	脇町高校：生徒4名

	一般社団法人そらの郷：福永
場所	つるぎ町 磯貝氏宅
内容	磯貝氏宅にて、聞き書きのインタビューを行った。  

日時	令和4年8月30日(火) 14:40~17:00
出席者	池田高校辻校：原教諭、生徒2名 一般社団法人そらの郷：園原
場所	美馬市 美村が丘
内容	美馬市美村が丘にて、祖父江氏に聞き書きのインタビューを行った。  

日時	令和4年10月14日(金) 13:00~15:00
出席者	池田高校本校：吉平教諭、生徒4名
場所	三好市東祖谷 祖谷の地美栄
内容	祖谷の地美栄の高橋氏を訪問し、2回目のインタビューを行った。

取材を終えた高校生の感想

○名人について

- ・名人の明るさと話しやすさで取材をするのが楽しかった。また現地で取材したことで、

傾斜地での農業の大変さや名人の農業への熱い気持ちがとても伝わってきた。

- ・名人のプロ意識は農業だけにとどまらず、職種を超えて仕事をしていくうえで大切なことだと思うので、学んだことをいろいろな場面で生かしていきたい。
- ・自然と深く関わり、今と昔の環境の変化を実感している方だからこそ自然に気を配り、自分の役割を果たそうとしていると感じた。
- ・他の国の言葉が話せなくてもコミュニケーションが取れるということを教えてくれた。コロナ禍で人とコミュニケーションをとることが難しくなったが、名人はそんな中でも人との繋がりを大事にしようとしており、人生の中でも重要なことを学べた。
- ・名人の話聞いて、努力することの大切さを知ることができた。私も名人のような、カッコいい大人になれるよう努力したい。

○傾斜地農耕システム、世界農業遺産について

- ・聞き書きをするまでは、先入観から傾斜地農耕や農業についての考えを持っていたが、名人の話聞いて、考えが覆されたり考え方を知ったりでき、活動に参加してよかった。
- ・世界農業遺産であるにもかかわらず知らないことが多く、とても良い機会となった。
- ・特に印象に残ったのは傾斜を活かした農業で、見たことのないような方法で驚いた。
- ・にし阿波の良さをたくさん知ることができた。今後も地域の伝統的な文化を広め、残していく活動を積極的にして、にし阿波の傾斜地農耕を伝えていきたいと思った。
- ・昔の人が考えた傾斜地農耕システムが、今や世界農業遺産として認められ、未来に向けても持続可能なものとして評価されているのは本当にすごいことだと思った。

○その他について

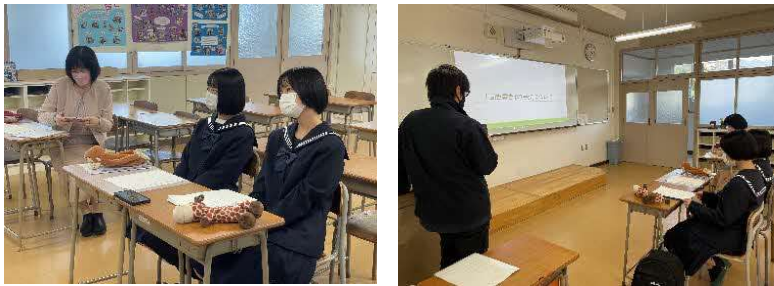
- ・名人たちの地域の生活はまさに自給自足で、SDGsを謳うこの時代には無くてはならない技術であり、学べることがたくさんあると思った。
- ・「地域の過疎化」の問題について、深く考えることができた。
- ・インタビューで疑問に思ったことを調べるなど、新しいことを学ぶきっかけになった。
- ・参加したことに誇りを持てるほど良い経験ができた。今後も自分なりに地域の良いところを広めていきたいと思う。


(エ)第2回研修会(文書整理研修会)の実施


参加した各高校において、講師に京都大学大学院農学研究科 岩男望氏、ニシアワアカデミア 國金重光氏を招き、文章の構成等に係る文書整理研修会を開催した。

【文書整理研修会】

日時	令和4年11月10日(木) 15:30~17:30
出席者	池田高校辻校:原教諭、生徒2名

	講師：國金氏、岩男氏（オンライン） 徳島県西部総合県民局農林水産部（三好）：山内 一般社団法人そらの郷：福永
場所	池田高校辻校
内容	<p>文字起こしした文章を確認したうえで、編集作業における注意点等について研修を行った。</p> <p>○前年度も聞き書きを実施した生徒だったため、編集の段取りが滞りなく進んだ。また、それぞれの印象に残ったトピックを中心に選定を進め、前年より詳細までこだわった、読者を飽きさせない作品づくりに取り組むことができた。</p>
	

日時	令和4年11月17日(木) 16：30～18：00
出席者	脇町高校：大久保教諭、生徒8名 講師：國金氏、岩男氏（オンライン） 徳島県西部総合県民局農林水産部（三好）：山内 一般社団法人そらの郷：福永
場所	脇町高校
内容	<p>文字起こしした文章を確認したうえで、編集作業における注意点等について研修を行った。</p>
	
日時	令和4年11月21日(月) 16：30～18：00
出席者	池田高校本校：田島教諭、生徒3名 講師：國金氏、岩男氏

	徳島県西部総合県民局農林水産部（三好）：山内 一般社団法人そらの郷：園原、福永
場所	池田高校本校
内容	<p>文字起こしした文章を確認したうえで、編集作業における注意点等について研修を行った。</p> <p>○2回の取材で多くの情報を聞くことができ、取材した本人以外にも人物が登場するため非常に内容が充実していたが、トピックの選定に悩んでいた。岩男氏・國金氏からのアドバイスで、取材した本人が話した部分を抜き出して構成を考え、不足部分を参照で書き足すことになった。</p>
	

また脇町高校については、文書校正に係る研修をオンラインおよび対面により追加で実施した。

日時	令和5年1月18日（水）、19日（木）、23日（月）、26日（木） 対応時間はそれぞれ2時間程度
出席者	脇町高校：大久保教諭、生徒12名 國金氏（オンライン）、岩男氏（オンライン） 徳島県西部総合県民局農林水産部（三好）：山内 一般社団法人そらの郷：園原、福永（オンライン）
場所	脇町高校
内容	<p>各グループの聞き書き文章を確認し、再度、掲載する事項や文章の順番等についてアドバイスを行い、聞き書き作品の仕上げ作業を行った。</p> <p>○聞き書き作品の完成形のイメージが定まっておらず、取材内容の構成を考える作業が難航していた。追加研修により、見出しから構成を考え、分担して詳細を編集していく流れができ、スムーズに編集できた。</p>



(オ)「聞き書き」作品集の作成

参加した高校生らが編集した聞き書き作品をとりまとめ、作品集を作成した。
本文 40 ページの冊子に編集し、1,000 部発行した。

○タイトルと話し手プロフィールの抜粋

◇磯貝流笑顔のつくり方

磯貝 ハマ子：年齢 75 歳（取材時）

略歴 傾斜地で、雑穀(ソバ、アワ、タカキビ、コキビ等)や麦、野菜等の多彩な農作物を生産している。平成 29 年 10 月には、新嘗祭にて生産したアワを献穀した。また、きな粉飴、こんにゃく、団子の加工販売にも取り組んでいる。さらに、体験型教育旅行の受け入れや、こんにゃく作り等の加工体験イベントの開催など、体験交流に貢献している。

◇いちごはうすに行つて

近藤 昭：年齢 71 歳（取材時）

略歴 イチゴ栽培に関する優れた知識・技術と豊富な経験を持ち、周年栽培に取り組んでいる。また農家民宿を運営するノウハウも持っており、農林漁家民宿「いちごはうす」を運営している。さらに、教育旅行や町の移住事業における移住希望者の受け入れ、西庄良所会主要メンバーとして各種団体の体験受け入れなど、町の活性化にも大きな役割を果たしている。

◇祖谷のそば文化を後生に～そば打ち体験を通して～

都築 麗子：年齢 77 歳（取材時）

略歴 そばをはじめとした、地域に伝わる食文化を後生や観光客に伝える活動に取り組み、近年は、観光客の発進する SNS 等で注目されている。「古式そば打ち体験」として、ソバの実を臼で挽き、そばを打ち、茹でて食べる体験の実施や、「祖谷の粉ひき唄」等の作業唄の披露で、地域文化の伝承に貢献している。

◇傾斜地を利用した暮らし

野田 由紀：年齢 74 歳（取材時）

略歴 西庄良所会のメンバーとして視察や大学生を受け入れ、旧西庄小学校で郷土料理のそば米雑炊、水車によるそば打ちでもてなして地域の食文化を紹介している。また地域のイベントや体験授業等では、地元産の農作物を用いた田楽、ばら寿司、そば、田舎団子をつくり、子供たちに食の重要性や郷土料理の特徴を説明するなど、地域の食文化の伝承に尽力している。さらに、体験型教育旅行の受け入れも行い、食文化や地域の情報発信にも取り組む。

◇自然と共に生きる

高橋 敬四郎：年齢 68 歳（取材時）

略歴 平成 26 年度に設立された「祖谷の地美栄」の施設長として解体、精肉から販売まで携わる。料理店や観光施設だけでなく、首都圏のレストランやロッテリア等に販路を拡大し、解体頭数の増加を図っている。平成 31 年には、「祖谷の地美栄」が全国で 2 例目の農林水産省「国産ジビエ認証」を受けるなど施設の発展に寄与している。

◇愛する百姓～人生の旅を経て～

祖父江 利江：年齢 74 歳（取材時）

略歴 生活改善グループのリーダーで、「夏子いなか市」の運営に設立から携わり、野菜販売だけでなく、地域の文化や伝統の発信にも貢献してきた。また、交流促進施設「美村が丘」の管理運営に携わり、農業体験、そば打ち体験等に尽力している。さらに、小学校のゲストティーチャーとして、伝統野菜「美馬太きゅうり」の栽培や食べ方を次代に伝えている。

(カ)にし阿波地域の農業活性化研究セミナー

京都大学大学院農学研究科の秋津教授を招請し、農業遺産の価値について学ぶセミナーを実施した。

日時	令和 5 年 2 月 27 日（月）10：00～11：30
会場	西部総合県民局三好庁舎 2 階 大会議室(メイン会場)
テーマ	にし阿波地域の農業活性化研究セミナー
対象者	西部総合県民局管内の市町、商工・観光団体の職員、 県民活動プラザ職員、J A、県民局職員等
次第	(1) にし阿波協働センター長（副局長）あいさつ

	<p>(2) 「食べる」と「つくる」からの地域づくり ー小さな農業へのプライドがブランドを生み出すー</p> <p>(3) 徳島県の研究発表「にし阿波高校生『聞き書き』プロジェクト」</p>
講師	<p>京都大学大学院 農学研究科 秋津 元輝 教授 京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻教授。 専門は、農業・食料社会学、食農倫理論。日本農村に関する研究から出発し、現代の農業や農村を支えるには、むしろ食や都市側からアプローチするべきという信念に至る。ここ数年間は、京都市、亀岡市などで市民参加型の研究活動を実践。これまで韓国、中国、タイ、タンザニア、ハンガリーなどでの農村調査や、欧米での食政策調査を経験している。</p>

○徳島県の研究発表において、その郷 園原氏より、高校生のにし阿波への理解度の向上と郷土愛創造、担い手確保への期待について発表された。

(キ)世界農業遺産シンポジウム

地域の取組事例報告として、脇町高等学校、徳島県立池田高等学校本校、辻校生徒によるプレゼンが行われた。(10分×3校=30分)

○生徒から、聞き書きに取り組んだ感想および今後の地域の伝統継承に関しての意見発表があった。

【3】研究結果

参加した高校生が、名人の生き方や地域に対する想いを言葉として引き出し、記録することができた。そして、自然とともに生きる循環型農業を学び、にし阿波地域が有するエシカルな価値の理解が促進された。また、過疎化や傾斜地農耕システムの存続に対する危機についても触れ、郷土愛を育むことができた。

考察

本研究を通して、地域の文化・伝統の継承危機と深刻な後継者不足の現状把握が進んだ。また、今後の地域を担う高校生に、傾斜地農耕システムについての認知を進めることができた。作品集をにし阿波地域の各高校に配布したことから、参加した生徒だけでなく、地域の高校全体に対し、聞き書きの取り組みを通じた地元の価値を周知できた。

【4】今後の展開

今後も聞き書き事業を継続し、地元高校生に、地域資源を活用した学びを推進する。また、地域での活動を通してSDGsやエシカルについて学ぶことで、地域農業の次世代継承を促す。

近年では、都市部の高校生も、修学旅行で地域課題について学ぶことが増加している。都市部の高校生、地元高校生、地元の大人と一緒に地域課題について考えることで、視野を広げ、様々な価値観や課題へのアプローチの仕方を学ぶ機会を創出する。

別紙 1

参加生徒一覧

在籍校名	氏名	フリガナ	対象名人
脇町高校普通科1年	山下 智大	ヤマシタ トモヒロ	磯貝 ハマ子
〃	松尾 優太	マツオ ユウタ	〃
〃	高橋 美優	タカハシ ミユ	〃
〃	重田 紗弥	シゲタ サヤ	〃
〃	町田 若菜	マチダ ワカナ	近藤 昭
脇町高校普通科2年	大下 隼世	オホシタ ハヤセ	〃
〃	篠原 聖弥	シノハラ セイヤ	〃
〃	白井 健太	ウスイ ケンタ	都築 麗子
〃	井口 煌之助	イグチ コウノスケ	〃
〃	吉見 琉之介	ヨシミ リュウノスケ	〃
〃	伊勢 春奈	イセ ハルナ	野田 由紀子
〃	湯藤 飛鳥	ユドウ アスカ	〃
池田高校探究科1年	麻木 結加	アサキ ユカ	高橋 敬四郎
〃	坂井 美優	サカイ ミユ	〃
〃	千葉 希	チバ ノゾミ	〃
〃	山口 未来	ヤマグチ ミク	〃
池田高校総合学科2年	桑岡 優李	クワカ ユリ	祖父江 利江
〃	美馬 李音	ミマ リン	〃

別紙 2

事前研修会 資料

「聞き書き」の手法について

聞き書きとは

話し手の言葉を録音し、一字一句すべてを書き起こしたのち、話し手の語り口でひとつの文章にまとめる手法。

特徴は語り手の話し言葉をそのまま残すこと。

聞き書きの例: 聞き書き甲子園



聞き書き甲子園は、毎年、全国の高校生が、森・川・海の名人を訪ね、その知恵や技術、さらには人生そのものを「聞き書き」し、記録・発信する活動。本年度で第 20 回開催を迎えた。これまでに参加した高校生は約 1800 人。



・今までの作品
・聞き書きの手法...

<https://www.kikigaki.net/>



<https://www.kikigaki.net/about>

聞き書きの例: 世界農業遺産に認定された地域



- 石川県能登地域、大分県国東半島宇佐地域でも行われている
- 技術や知恵、地域に対する思いを継承する



http://www.pref.shikawa.jp/satoyama/notogiahs/kikigaki_top.html

5

聞き書きの魅力

- じっくり対話する時間
家族や友人でも改まって話を聴く機会にはほとんどない
「今しか聞けない」「あなたにしか聞けない」
- 語り手の言葉が浮かび上がってくるような作品
読み手は、その人に出会って語りを聴いているような気持ちになる

6

「聞き書き」全体の流れ(一例として)

- ①準備
- ②インタビュー
- ③文字起こし
- ④編集
- ⑤作品の完成

7

全体の流れ①準備

- グループ内の役割分担を決める
 - メインインタビュアー
 - サブインタビュアー: インタビューの舵取り、補足質問、タイムキープ
 - カメラマン: 写真・動画の撮影
- など、人数や当日の雰囲気に応じて柔軟に

9

全体の流れ①準備

- 相手についての基本情報、インタビュー内容(テーマ)を確認
- 質問事項の準備
 - ...質問に困ったときや会話のぎっかけが欲しいときのため
- 自己紹介カード(名刺)の用意

10

全体の流れ①準備

(質問内容例)

- ①現在の話
 - どんな暮らしか、楽しみなこと、困ったこと、体の調子など
- ②子ども時代の話
 - 生まれた場所や育った場所の様子、ご両親はどんな人だったか、どんな遊びをしたか、お祭りや小学校の思い出など
- ③青年時代の話
 - 好きだった俳優や歌手、初恋、服装や食事など
- ④結婚の話
 - 出会い、新婚時代、子ども誕生の思い出、子どもの名前の由来など

11

全体の流れ①準備

〈質問内容例〉

⑤仕事・家庭生活

これまでどんな仕事をしてきたか、その仕事についたきっかけ、大変だったこと、成功談・失敗談、私たちに伝えたい人生の教訓、子育ての苦労や楽しかったこと、昔から伝わるしぎたり、得意な料理、家事のコツなど

⑥趣味

現在楽しんでいること、若い頃から続けている趣味、旅行、好きなスポーツなど

⑦お子さんの話

今お子さん達はどうしているか、お孫さんまいらっしゃるかなど

12

全体の流れ②インタビュー

- 「聞き書き」で最も重要な段階
- 自己紹介からスタート
- 名人にも自分のことを語っていただくと、作品に活かせる
- 録音を忘れずに
- icレコーダー(またはスマホの録音機能)
 - ...下にハンカチを敷く
 - 複数のレコーダーがあると安心
 - 同時に録音開始するとあとで文字起こししやすい

14

全体の流れ②インタビュー

- 必要に応じてメモをとる(話に集中することを優先)
- インタビューの目安は1～2時間
- 写真撮影

15

全体の流れ②インタビュー

- 聞き出そうとしすぎない
- わからないことがあったら名人に直接その場で尋ねる
- 「謙虚に・積極的に」「共有する時間を大事に」「楽しんで」

28

全体の流れ③文字起こし

- 録音内容を、聞き手の質問も含めて全て文字に起こす
- 聞き手の質問と名人の言葉が区別できるように
(質問は括弧に入れる、記号をつける等)
- 1時間のインタビュー→6~10時間程度かかる
- グループ内で分担
インタビュー開始~20分、20~40分、40~60分...など

29

全体の流れ③文字起こし

- 文字起こしソフト: テープ起こしプレーヤー、okoshiyasu2²など
早送り・巻戻し・速度調整が楽
Googleドキュメントでは音声入力も可能
- 方言や言い回しなどを丁寧に残す
- 聞き取れないところは「？」などで示しておく
→次回のインタビューで確認する

30

全体の流れ④編集

- 「作品」として個性が出るところ
- 名人の言葉を残しつつ、読みやすく

- 聞き手の質問→文章に入れるor削除
- 繰り返し、言いよどみ→削除
- ネガティブな話、抽象的な一般論→削除、読む人が誤解しないように

21

全体の流れ④編集

(具体例)

—働き始めたのは何歳の時ですか？

ああ、うーん、17の時。あれ、18か、昭和の40年の春だったから。町に出

て。

—18歳の時。

そうそう。うん。そうそう。



働き始めたのは、18歳の時。昭和40年の春に、町に出て。

22

全体の流れ④編集

- 意味が通るように主語を補う
- 同じ話はひとつにまとめる
- わからない言葉(専門用語、方言、地名など)、聞き逃したこと、もっと深く聞きたいこと
→次回のインタビューのためにメモしておく

23

全体の流れ④編集

- 内容のまとまりごとに小見出しをつける
- 全体の構成を考え、小見出しをつけたまとまりごと入れ替える
...時系列を重視する、内容のつながりを重視するなど
- まえがき・あとがき(必要なら)、タイトルをつける

全体の流れ⑤作品の完成

- 名人にも読んでいただく
- 作品集の完成、発表